

公開シンポジウム

平穩死について考える

講演:「平穩死のすすめ」

石飛幸三 特別養護老人ホーム芦花ホーム医師

対談:「長寿社会と家族」

石飛幸三 × 大村英昭 関西学院大学社会学部教授

司会:伊藤公雄 京都大学大学院文学研究科教授

2010年12月19日(日) 午後1:30~5:00

千里ライフサイエンスセンター5階 会議室
大阪府豊中市新千里東町1丁目4-2 (06-6873-2010)

要申込み
入場無料

主催:「生き方死に方を考える社会フォーラム」 共催:大阪大学医療人文学研究会
申込み・連絡先:〒565-0871 吹田市山田丘1-2 大阪大学人間科学研究科 (山中浩司)
Tel/Fax:06-6879-8078 e-mail:yamanaka@hus.osaka-u.ac.jp

公開シンポジウム 「平穏死について考える」

http://bunka.hus.osaka-u.ac.jp/medical_humanities/meeting.html

主催： 生き方 死に方を考える社会フォーラム

共催： 大阪大学医療人文学研究会

日時： 2010年12月19日（日） 午後1：30～午後5：00

場所： 千里ライフサイエンスセンター 5階 会議室

〒560-0082

大阪府豊中市新千里東町1丁目4-2

Tel. 06-6873-2010



モノレール千里中央駅から徒歩約5分
北大阪急行千里中央駅北改札すぐ

プロフィール：

石飛幸三（特別養護老人ホーム 芦花ホーム医師）

昭和10年11月2日生まれ。昭和36年慶応義塾大学医学部卒業。

昭和45年ドイツ、フェルディナント・ザウアーブルッフ記念病院で血管外科医として約2年間勤務。

昭和47年より東京都済生会中央病院勤務。平成5年同病院副院長。平成17年12月より芦花ホームに勤務。

著書『「平穏死」のすすめ』（講談社）で、延命治療の限界と安らかな「看取り」を訴え、現在も各地で活動中。

大村 英昭（関西学院大学社会学部教授・大阪大学名誉教授）

社会学者・宗教学者。「しずめ」の社会学で著名。

社会学と宗教学の立場から、現代社会の病理を看破する。

著書に『死ねない時代—いま、なぜ宗教か』（有斐閣1990年）、『日本人の心の習慣—鎮めの文化論』（NHKライブラリー1997年）ほか。

要申込み：入場無料

参加ご希望の方は、①お名前、②人数、③ご連絡先を下記までお知らせください。電話、ファックス、メール、ハガキ等いずれの方法でも結構です。万一会場の収容人数を越えるお申し込みがあった場合には、お断りしなければならない場合もありますので、どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

〒565-0871 吹田市山田丘1-2 大阪大学人間科学研究科 山中浩司
tel/fax: 06-6879-8078 e-mail: yamanaka@hus.osaka-u.ac.jp